

3/24 花

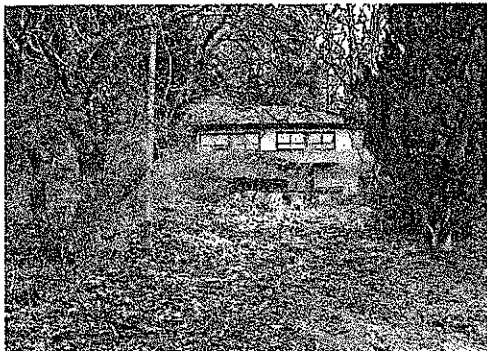
過酷事故10年 帰れない

国策ですめた原発
東京電力福島第1原発の過酷事故から10年。依然として放射能で汚染された広大な「帰還困難区域」が残る現象は、日本のエネルギー政策の転換を求めているといえます。「帰還困難区域」のいまと、連綿して「原発ゼロ」運動を続ける人たちの思いをレポートします。(国部浩士)



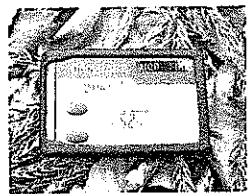
福島帰還困難区域のいま

「浪江町に来るなら帰還困難区域」です。町には避難区域を編成し、被害住戸の世帯を3000から約840世帯に減らす計画が立てられた。浪江町避難区域から二本松市下津原地区に避難している松田明雄さん(54)は、妻の首飾の水素施設検査(6日)に参ります。結婚後25歳の若さで建て、子ども3人を育てた自宅の家を住めなくなり、帰還の道が閉ざされた。浪江町には、帰還困難区域に避難した住民が約4000人、約1000世帯が生活しています。ストレスで病に。一家で仮設住宅に移ったものの、浪江町には帰還した行けなくなった心の傷を引



帰還困難区域にされた浪江町津島地区では、廃屋同然の家や、腐りがやぶに覆われた家がありました=6日

原発ゼロへの転換こそ被害に向き合う政治



帰還困難区域の浪江町津島地区の山道では、どんどん緑葉が上がりました=6日

17人が参加した「原発ゼロ白河金曜日」は19日、白河駅前



「放射能監視(監視)は除染する」というのが、今の除染されない。10年間生殺しの置き置きの状態だ。国が責任を認めれば、除染した時に気持がよくなるかもしれないが、今はそんな気持ちになれない。目立つ通行止め
中山間部にある津島地区。国道49号には「通行止め」の看板が目立ちます。浪江町の許可を得て通行止めの看板を、山道に入ると、地面は枯れ木や枯れ葉、動物の糞などで覆われ、路肩とがけの見分けがつかず。徒歩で20分ほどですみました。途中にあった家も軒は腐屋同然。周りがやぶに覆われ、女もわからない家も。持参した除染計が、毎時2・23放射線、2・74と、どんどん上昇。2・74になったところで戻らざるをえませんでした。国は10年間、一度も除染せず放置してきました。除染計画も明らかではありません。



草木や雑草などで覆われた商店も目立った帰還困難区域=6日、福島県浪江町

家も農地も返せ
遠くに見える安達太良連峰の山並みが「南津島」に似ている。17人が参加した「原発ゼロ白河金曜日」は19日、白河駅前

「帰還困難区域」は「帰還困難区域」です。町には避難区域を編成し、被害住戸の世帯を3000から約840世帯に減らす計画が立てられた。浪江町避難区域から二本松市下津原地区に避難している松田明雄さん(54)は、妻の首飾の水素施設検査(6日)に参ります。結婚後25歳の若さで建て、子ども3人を育てた自宅の家を住めなくなり、帰還の道が閉ざされた。浪江町には、帰還困難区域に避難した住民が約4000人、約1000世帯が生活しています。ストレスで病に。一家で仮設住宅に移ったものの、浪江町には帰還した行けなくなった心の傷を引

「帰還困難区域」は「帰還困難区域」です。町には避難区域を編成し、被害住戸の世帯を3000から約840世帯に減らす計画が立てられた。浪江町避難区域から二本松市下津原地区に避難している松田明雄さん(54)は、妻の首飾の水素施設検査(6日)に参ります。結婚後25歳の若さで建て、子ども3人を育てた自宅の家を住めなくなり、帰還の道が閉ざされた。浪江町には、帰還困難区域に避難した住民が約4000人、約1000世帯が生活しています。ストレスで病に。一家で仮設住宅に移ったものの、浪江町には帰還した行けなくなった心の傷を引